

2022 年度事業報告書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所

I 事業の成果

1) 組織づくりの課題

今期は、組織づくりの課題として、2017 年に採択された新しいミッション一覧の見直し進め方針を掲げておりましたが、見直し作業を十分に進めることができませんでした。

財源確保、会員拡大に置いては一定の成果がありました。

1-1) 中期計画と短期目標を結びつけよう

方針に掲げていたミッション見直しのための会議は開催できませんでした。ミッション見直しにおいては、河北潟と流域の過去と現状を把握することが欠かせないことから、大野川と河北潟の塩分濃度等の現状や過去の汽水域をめぐるできことについての調査研究を一定程度進めることができました。その成果は河北潟総合研究 25 巻に掲載されました。

1-2) 財源の確保

ファンドレイジング計画を作成し会費及び寄付金収入の増加を図る方針を掲げました。ファンドレイジング計画については作成に至りませんでした。寄付月間では寄付額は少ないものの寄付者を増やすことができました。また、会員を増やすことができました。

1-3) 仲間を増やそう

会員拡大推進会議を 1 回開催しました。会員募集の手書きのチラシを印刷し、イベントで配布しました。12 月に Web 入会申込フォームを作成し、メルマガで会員募集を呼び掛けました、正会員 2 名 サポート会員 7 名 ボランティア会員 3 名に入会いただきました。

2) 研究活動の課題

河北潟ビジョンに基づき再汽水化に関する基礎調査や水田の生物について市民参加型の調査活動、機関誌紙の発行を進めることを目指し、活動を行いました。

2-1) ビジョンプロジェクト

再汽水化プロジェクトの現地調査が進展しました。塩分測定のコロゲーターの設置等から、大野川から河北潟への海水流入の実態が分かりました。底生動物などの実態調査が実施されました。これらの調査結果は、河北潟総合研究に掲載されました。

地域循環共生圏プロジェクトは、担当者を中心に資料収集を行いました。

2-2) 市民参加型調査

市民参加型調査としては、流域のゴミ調査を実施しました。ゴミが多く集まっている場所が分かりました。大学生のインターンシップの受け入れを行いました。流域のゴミ調査は6回実施しました。このうち11月23日には野鳥観察とゴミ拾いをあわせたバスツアーを実施しました。

2-3) 機関誌紙の発行

総合研究は、原著論文及び調査報告5報を掲載した「河北潟総合研究」第25巻を発行しました。編集委員会は開催できていません。

通信かほくがたは、vol. 27-3～vol. 27-4を発行しました。

3) 地域連携をつくる課題

従来からの河北潟周辺での連携の取り組みを継続強化することと、連携を流域に広げるために流域協議会をつくることを課題として取り組みました。

3-1) 河北潟流域自然再生協議会

河北潟流域自然再生協議会が発足し、5回のワークショップを行い、自然再生全体構想案を作成しました。

3-2) 流域連携の推進のための部会

準備会ワークショップと並行して、自然再生全体構想作成委員会を2回開催しました。

3-3) ラムサール条約登録に向けた連携

日本野鳥の会とは流域協議会の課題調整の中で、ラムサール登録の方針を確認しましたが、まだ具体的な動きにはつながっていません。

4) 河北潟の環境保全の環を拓けよう（参加型の実践活動）

河北潟の環境保全に取り組む人の環を拓けるための活動として、観察会やシンポジウム、田んぼの活動を行いました。

4-1) 観察会・シンポジウム

2月24日に、河北潟流域のゴミ調査結果やゴミ問題についてのシンポジウム「ゴミに取り組むひとびと」を開催し、60名が参加しました。

3月25日、自然再生協議会についてのシンポジウム「つくってよかった自然再生協議会～作ることでできたこと、続けることでできること～」を開催し59名が参加しました。

3月26日、牧山町、河原市用水、河北潟放水路、干拓地等をまわり、流域各地の取り組みや課題について学ぶ「河北潟流域巡りバスツアー」を実施し、16名参加しました。

4-2) 七豊米

田植え、観察会(2回)、稲刈りイベント、日常作業を実施を実施し、述べ125名が参加しました。田んぼが3枚に増えました。

4-3) ジュニア河北潟流域レンジャー

「ジュニア河北潟流域レンジャー」と銘打ち、5月～10月まで10回の体験活動を行い、4名がレンジャーとして認定されました。「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」に採択され努力賞を受賞しました。(賞金合計20万円)

5) 自主事業

常勤スタッフを中心に、他の会員の協力のもと収益性の確保を進めてきましたが、事業規模は横ばいでした。人件費を加えるとまだ赤字であり、収益性の確保が引き続き課題となっています。

5-1) 生きもの元気米・その他の生きもの元気農産物(加工品を含む)

2022年産は、藤木農園のほ場が増えたことで、水稻のみでは場面積27,598㎡、ほ場枚数11枚と拡がりました。しかし生産量としては昨年よりも少なくなりました。無農薬栽培ほ場は、全体で6枚となっています。

5-2) すずめ野菜

一年を通じて40品種ほどの野菜を生産し、生産した野菜はおもに金沢駅西広場でのマルシェにて金沢市内の住民に直接販売しました。生産活動には、農業体験を希望する9名が参加しました。そのほか農作業希望者1名が毎月3～4回参加しました。秋の生産量が例年より向上しました。

5-3) 金曜マルシェ

4月1日～11月25日までの毎週金曜日、全33回開催しました。すずめ野菜では後半の生産量が上昇したことが影響して売上が2021年より11万円向上しました。仕入品ブ

ースを分けたことで品数も増え、来場者からも好評でした。

5-4) ネットショップ

「河北潟湖沼研究所のお米屋さん」、「すずめ野菜」、「カホクガタ」の売上は大きな変化はありません。全体として出店手数料・クレジット手数料・取扱手数料などの固定費が大きく収益性は改善されていません。

5-5) 市民科学出版, その他出版事業

2冊程度の自費出版の受注を目指しましたが、受注はできませんでした。2019年度発行の『両生類に魅せられて』は販売を取り扱っており12冊を販売しました。カレンダーは販売して黒字となりました。

6) 受託事業

特定非営利活動にかかる事業としてのグリーン・アースからの2つの委託事業、こなん水辺公園解説員派遣事業、新規事業としてのハッタミミズビオトープ管理、民間からの1事業は例年どおり実施しました。

6-1) 河北潟干拓地農村環境保全活動

グリーン・アース農地・水・環境保全組織より、農地・水保全管理支払交付金における農村環境保全活動に係る計画策定業務を受け、現地調査および生態系保全計画の提案をおこないました。

6-2) 県植生保全管理事業

継続して受注し実施しました。この中で湖岸植生断面図、及び湖岸植生図を作成しました。湖岸が壊れている箇所も見つかりました。

6-3) こなん水辺公園

4月～11月と3月に例年どおり実施しました。公園案内パンフレットは作り直す予定でしたが、まだ作成できていません。

7) 助成金事業

地球環境基金とエフピコ環境財団から助成を受けました。また、LUSH ジャパンの助成を新たに受けることができました。

7-1) 地球環境基金

「流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を

拡大する」活動を実施しました。河北潟流域自然再生協議会設立にむけたワークショップやシンポジウムの実施、河北潟流域新聞の作成配布、流域ツアー実施、視察等を行いました。

7-2) エフピコ環境財団

河北潟流域のゴミの実態調査を市民参加型で行いました。シンポジウムを実施しました。

7-3) LUSH リファンドリファンドローカル助成

紙袋の売上げを生態系や社会システムの再生プロジェクトに寄付する「Re:FunD」助成に採択され10月より活動を開始しています。生きもの元気米の取り組みに活用するため色彩選別機の購入、米の品質調査を実施しました。

II 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
研究・広報・ 実践活動（基 本事業）	河北潟の自然環境等の研究、 広報誌の発行、通信活動等、研 究助成・環境保全の実践活動	2022.4 ~ 2023.3	河北潟及 び周辺	7	全国の研究 者、地域住民 等 110 万人	1,168
地球環境基 金事業	流域連携による環境保全	2022.4 ~ 2023.3	河北潟周 辺	30	地域住民等 10 万人	3,148
エフピコ環 境基金事業	ゴミ調査・啓発	2022.4 ~ 2023.3	河北潟及 び周辺	5	地域住民等 10 万人	1,130
LUS リファ ンド助成事 業	生きもの元気米の普及を通じ 持続可能なコミュニティの形 成	2022.10~ 2023.3	河北潟周 辺	10	地域住民等 10 万人	1,694
こなん水辺 公園解説員 派遣事業	河北潟とこなん水辺公園の自 然について来園者らに解説	2022.4 ~ 2023.3	金沢市	4	金沢市民その 他 50 万人	597
地域連携事 業	干拓地における水辺と農地保 全活動	2022.4 ~ 2023.3	河北潟干 拓地	6	地域住民等 10 万人	2,469
出版事業	研究成果物の普及,出版企画等 の事業	2022.4 ~ 2023.3	全国	4	地域住民等 50 人	171
地域循環社 会事業	環境保全米、循環型の野菜の 生産拡大	2022.4 ~ 2023.3	河北潟周 辺	6	地域住民等 1000 人	4,729

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
受託事業	調査受託等	2022.4 2023.3	～ 石川県内	3	2,398